

# 下中窪田村「飯田家文書」について

## はじめに

現在、熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館には、下中窪田村（現在の菊池郡大津町矢護川地区<sup>〔1〕</sup>）に所在していたとされる飯田家に関する文書群が所蔵されている。これは、矢護川小学校に関する文書群とともに、平成一九年に古書肆より購入された史料群である。

これまで未整理のまま保管されていたが、平成二二年八月一八日から一九日にかけて、本学日文科学生である園田悠（四年）、浅尾亜弓（二年）、園田彩乃（二年）、成田愛実（二年）、成富なつみ（二年）とともに整理および目録作成を行った。

以下、調査成果に基づいて文書群の概要を紹介しながら、飯田家とその周辺について述べ、目録を稿末に付す。

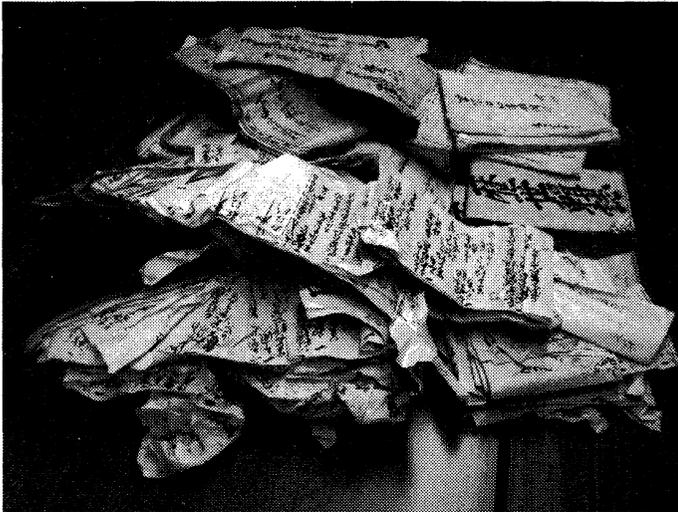


図1 「飯田家文書」群

大島明秀

一 文書群の概要

「飯田家文書」は六〇点に整理され、古いものでは宝暦期（飯田58）、新しいものでは昭和期（飯田3）に及ぶ（以下、稿末表1参照）。

文書の大半は、幕末明治期の肥後大津下中窪田村における金銭・土地関係書類の写し、ならびに田畑の等級・名寄等であるが、中でも、下中窪田村庄屋から大津手永惣庄屋下田弥七郎に宛てた質地・讓地証文の写し（飯田24、30）が確認できることは興味深い。なお、証文類に裏書および印判が認められないことも、これらが写し（扨）であることを証明している。

同様に、次代の惣庄屋山隈権兵衛に宛てた証文類の写し（飯田19、20、25、31、32、40、41、42）、ならびに次々代の惣庄屋山隈新左衛門に宛てた写し（飯田33、34、43、44、45）、さらに次代の惣庄屋高木仁十郎に宛てた質地・讓地証文、田畑名寄見図帳、御足米徳揃帳の写し（飯田35、36、37、48、50）が認められ、加えてそれらのほとんどの差出が下中窪田村庄屋であることにも留意すべきである。

なぜなら、このような重要史料の写しが飯田家に所有されていた事実は、下中窪田村における同家の社会的位置の高さを示しているからである。

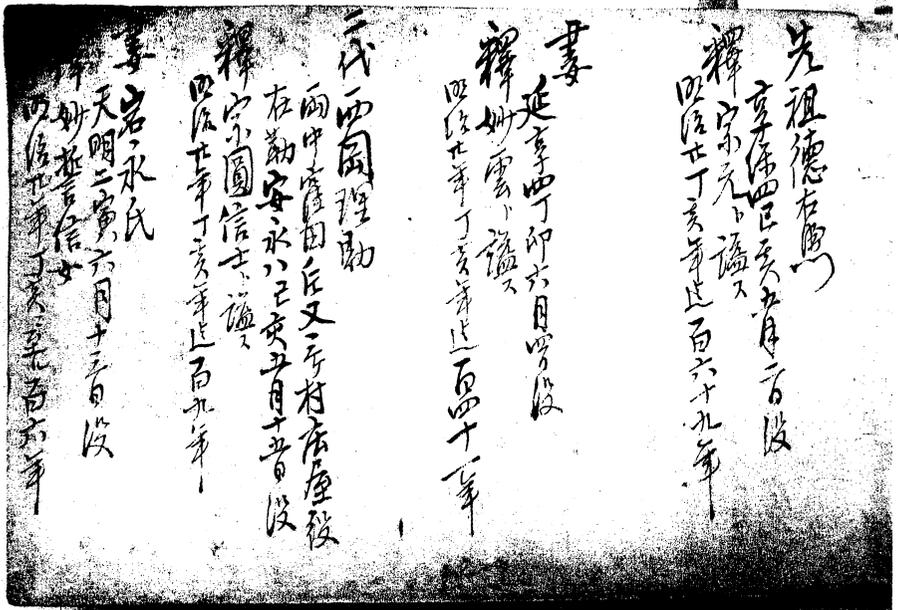


図2 飯田家系譜が記されている

## 二 飯田家系について

整理番号（飯田12）の史料は、五冊の横帳が合綴されたもので、諸事にまつわる人名簿、諸経費明細、飯田家の慶弔行事に関する記録等が記されている。

この合綴史料には各史料の表紙・裏表紙に加えて、さらに全体の表紙および裏表紙が付されており、そこには「歴世輯誌」（全体表紙）、「明治廿壹稔／戊子夏五月輯録／飯田本家」（全体裏表紙）との墨書打ち付けがある。

この表題が示すとおり、史料中には飯田家系にまつわる記述が確認できる。以下、「歴世輯誌」中の系譜をもとに飯田家（西岡家）の系譜を辿る。<sup>4</sup>

まず、初代については「先祖徳右衛門」と苗字の無い名が記されている。徳右衛門は、享保四（一七一九）五月二日に没した。

二代目西岡理助は、「両中窪田片又三ヶ村庄屋役／在勤安永八<sub>己</sub>亥五月十五日没」とあり、三ヶ村の庄屋を勤めていたこと、ならびに苗字を許されていることが分かる。理助は、安永八（一七七九）五月十五日に永眠した。

三代西岡伊右衛門は、寛政五（一七九三）年一〇月五日に没した。

四代西岡傳十は、「中窪田村庄屋役在勤下中窪田村庄屋代

兼勤役方」であり、長年の仕事を認められ、「無苗御惣代直觸」に召し出されている。さらに、文化五年（二八〇八）十月には両中窪田村庄屋本役、翌年六月朔日には寸志により「御那代直觸」となった。弘化三年（一八四六）五月四日に没した。

傳十には二男一女があり、長男尚助は久富氏に入ったが別離復籍し、のち内藤氏家法の医術を修業し、請われて養子に入ったが、文政六年（一八二二）九月二十五日に早世した。娘津以は、大矢野（埜）氏に嫁いだ。天保五年（一八三四）八月、二男灘八に家系を継がせ、大津町に移住し、以降子孫は同地に住することとなった。

二男利助（のち半助）は、文政五年（一八二二）八月熊本に居住していたが、そこで「御切米取觸組諸役人段」であった飯田半兵衛の養子に縁組された。

半兵衛は、天保四年（一八三三）正月三日に逝去し、利助（半助）は「西岡氏ノ家屋財産ヲ以飯田氏ノ家系ヲ継ク」ととなった。二人扶持、諸役人段に召し出され、さらに「堀七郎兵衛觸組」に加えられた。

利助（半助）の長男半次郎と二男宇三郎については生年と改名の外、目立った記述は無い。また、娘西は、「菊池郡高野瀬村在宅組付御中小姓」である吉村氏に嫁いだことが記されている。

「歴世輯誌」の飯田家系譜は以上で終わっているが、「明治七年 有禄士族基本帳」には、下中窪田村の宅地主族飯田小兵衛（定）についての記載が見られる。なお、この小兵衛（定）とは前述の飯田半次郎のことである。<sup>(5)</sup>

八等官諸役人段、二人扶持であった小兵衛は、嘉永六年（一八五九）一月二四日に家督を継ぎ、明治三年（一八七〇）七月二五日に定と改名した。二人扶持からの改正高は一二石二斗五升。明治七年二月に六三歳にて隠居し、明治十一年十月二四日に長男の競（当時三八歳）が家督を相続している。<sup>(6)</sup>

## おわりに

以上、史料群から判明したことは、飯田家のルーツが、両中窪田村・片又村において庄屋などを勤め、寸志御家人ともなった西岡家であったことである。

その後西岡家は家督が絶える事態に陥るが、四代傳十の二男利助（半助）が飯田家に養子に入り、西岡家の財産を有しながら、天保四年（一八三三）飯田家の家督を継ぐこととなった。ここにおいて飯田家は、両中窪田村・片又村を中心とした地域において、西岡家が庄屋時代に築き上げた財と力を獲得した家となった。

残存する史料群はほぼ下中窪田村にまつわるもののみであることから、ここでの言及は同村に限定されることになるが、利助（半助）以降の飯田家はもはや下中窪田村の庄屋ではなかったものの、それにもかかわらず、同村庄屋から大津手永の惣庄屋に宛てた質地・譲地証文の写しが数多く確認できることは、下中窪田村における飯田家の社会的位置と財が幕末明治期に至っても相当なものであったことを示している。

表1 「飯田家文書」目録(7)

番号	表題	差出 (作成)	宛所	年次	法量 (縦×横)	形態	紙数	内容	備考
飯田 1-1	大福米金収 入帳	飯田氏	なし	明治40年 (1907) 1 月11日-	13.4× 39.2cm	横長帳 (6冊合 綴)	42丁	米金の収入	○1-1から1-6まで六冊合綴 ○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり ○全体表紙「小作【自明治 四拾年度 至明治四拾五年 度】」 ○全体裏表紙なし
飯田 1-2	大福米金収 入帳	なし	なし	明治41年 1月11日 (1908) -	13.4× 39.2cm	横長帳 (6冊合 綴)	39丁	米金の収入	○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 1-3	大福米金収 入帳	なし	なし	明治42年 1月11日 (1909) -	13.4× 39.2cm	横長帳 (6冊合 綴)	41丁	米金の収入、地 価等	○挟込二点 ○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 1-4	大福米金収 入帳	なし	なし	明治43年 1月11日 (1910) -	13.4× 39.2cm	横長帳 (6冊合 綴)	43丁	諸収入、地価、 質地、譲地等	○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 1-5	大福米金収 入帳	なし	なし	明治44年 1月11日 (1911) -	13.4× 39.2cm	横長帳 (6冊合 綴)	44丁	米金の収入、質 地、車税等	○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 1-6	大福米金収 入帳	なし	なし	明治45年 1月11日 (1912) -	13.4× 39.2cm	横長帳 (6冊合 綴)	36丁	米金の収入、車 税等	○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 2	字限田畑等 級調帳	(矢護川村 之内 旧下 中窪田村)	なし	なし	13.2× 40.0cm	横長帳	25丁	矢護川村の田畑 等級調	
飯田 3	大福小作収 入帳	なし	なし	昭和8年12 月-昭和9年 1月 (1933- 34)	13.8× 40.0cm	横長帳	51丁	小作収入	○昭和八年十二月の日付印あり ○昭和九年壹月の日付印あり
飯田 4	大福帳	なし	なし	明治43年 1月11日 (1910)	14.0× 39.6cm	横長帳	31丁	抵当による収入 について	○裏表紙に「飯田」との墨書 あり
飯田 5	大福帳	なし	なし	安政5年 1月11日 (1858)	13.2× 38.5cm	横長帳	16丁	小作収入	○挟込一点 ①14.4×15.5cm 印二点あり <sup>[マ]</sup> ○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 6	大福帳	なし	なし	万延2年1 月11日 (1861)	13.5× 39.5cm	横長帳	13丁	小作収入	○表紙に「文久元四月御達」 との墨書あり ○「安政五年是より寸志初メ」 との記載あり <sup>[マ]</sup> ○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 7	歳中諸控	なし	なし	元治2年 1月11日 (1865)	13.5× 40.5cm	横長帳	16丁	小作収入	○表紙破損あり ○裏表紙に「伍大力大菩薩」 との墨書あり
飯田 8	歳中諸控帳	なし	なし	万延2年 1月11日 (1861)	13.2× 39.2cm	横長帳	26丁	小作収入	○表紙に「文久元四月御達」 との墨書あり
飯田 9	御通	肥後大津塘 町 東油屋	飯田様 御本 宅	明治13年 1月16日 (1880)	13.4× 20.0cm	横帳	4丁	東油屋と飯田家 の引合	○「肥後 大津 東油屋」、「引 合」、「請取」朱印あり
飯田 10	干草控	なし	なし	明治14年9 月(1881)	12.0× 16.8cm	横帳	8丁	干草の見積立帳	

飯田11	奉願口上之覚	なし	なし	なし	24.4×34.6cm	一紙(切紙)		陳上書の雛形	
飯田12-1	なし	飯田本家	なし	明治21年5月(1888)	14.8×21.6cm	横帳(5冊合綴)	36丁	飯田(西岡)家系譜並びに諸経費明細、飯田家の慶弔行事に関する記録等の雑綴	○12-1から12-5まで五冊合綴(全体の表紙・裏表紙が一つにまとめられている) ○全体表紙に「歴世輯誌」との墨書あり ○全体裏表紙に「明治廿壹陸戊子夏五月輯録 飯田本家」との墨書あり ○挟込二点 ①表題「口上」 「飯田様」宛 16.0×24.3cm ②挟込一点 表題なし(戒名一覧) 24.1×31.4cm
飯田12-2	なし	なし	なし	弘化4年11月-明治17年12月(1847-84)	14.8×21.6cm	横帳(5冊合綴)	36丁	諸事加勢人名簿、諸経費、飯田家慶弔行事等の雑綴	○挟込一点 ①表題なし(系譜の一部) 16.0×47cm
飯田12-3	なし	なし	なし	なし	14.8×21.6cm	横帳(5冊合綴)	36丁	諸事加勢人名簿、諸経費、飯田家慶弔行事等の雑綴	○挟込三点 ①表題「明治十五年四月廿四日追薦」 18.0×26.8cm ②表題なし(系譜の一部) 23.8×39.8cm ③表題なし(諸経費の合計金額) 14.2×20cm
飯田12-4	なし	なし	なし	なし	14.8×21.6cm	横帳(5冊合綴)	36丁	白紙	
飯田12-5	なし	なし	なし	なし	14.8×21.6cm	横帳(5冊合綴)	36丁	白紙	
飯田13-1	なし	飯田氏	なし	明治24年8月(1891)	14.4×21.5cm	横帳(4冊合綴)	34丁	田の等級と質地の事	○13-1から13-4まで四冊合綴(全体の表紙・裏表紙が一つにまとめられている) ○全体表紙に「所有地彙輯」との墨書あり ○全体裏表紙に「明治廿四陸辛卯秋 八月中旬改調 飯田氏」との墨書あり
飯田13-2	なし	なし	なし	明治24年8月(1891)	14.4×21.5cm	横帳(4冊合綴)	34丁	宅地並びに畑と山林原野の等級	○挟込一点 表題なし(地価・地租) 16.0×39cm
飯田13-3	なし	なし	なし	明治24年8月(1891)	14.4×21.5cm	横帳(4冊合綴)	34丁	山林原野並びに田畑所有と等級	
飯田13-4	なし	なし	なし	明治24年8月(1891)	14.4×21.5cm	横帳(4冊合綴)	34丁	白紙	
飯田14	第二号耕地宅地改正反別名寄	元下中窪田村	なし	なし	12.0×32.4cm	横長帳	43丁	耕地宅地改正反別名寄	○付箋十六点

飯田15	第巻号 耕地宅地改正別名寄	元下中窪田村	なし	なし	12.1×33.0cm	横長帳	51丁	耕地宅地改正別名寄	○付箋十三点 ○貼紙一点
飯田16-1	亥暮諸上納錢稜寄帳	下中窪田村	なし	文久3年11月(1863)	12.0×33.4cm	横長帳(2冊合綴)	32丁	諸上納錢稜寄帳	○16-1から16-2まで二冊合綴 ○挟込三点(開披不能一紙二点、貼紙の剥落一点) ○裏表紙なし
飯田16-2	他所諸出錢取立帳下中窪田	下中窪田(村)	なし	文久3年12月(1863)	12.0×33.4cm	横長帳(2冊合綴)	14丁	貸付、取立に関する明細	○裏表紙なし
飯田17	亥暮稜寄諸割賦物根帳	下中窪田村	なし	文久3年11月(1863)	11.9×34.2cm	横長帳	13丁	村備錢、無預畝物徳米代等	○裏表紙なし
飯田18	字限田畑等級調帳	元下中久保田村	なし	なし	22.0×17.0cm	縦帳	44丁	田畑等級調帳	○表紙に「村扣」との朱書あり
飯田19	覚	平助・芦川庄兵衛	山隈権兵衛殿	弘化2年3月(1845)	24.2×16.4cm	縦帳	仮綴3丁	質地証文	
飯田20	覚	平助・藤八	山隈権兵衛殿	嘉永5年2月(1852)	24.6×17.4cm	一紙(断簡)	1丁	質地証文	○印二点あり
飯田21	女大學	西岡津為(新開村西岡娘津為)	なし	文化5年(1808)	26.2×20.2cm	縦帳(写本)	33丁	貝原益軒「女大學」(版本)の写し	○表紙に「右」との墨書あり ○裏表紙に「鎮西肥之後陽合志郡【大津郷 中窪田郷】との墨書あり
飯田22	家督相續二付地券證書換願	今村岩八証人山羽大七今村甚四郎	熊本県権令富岡敬明殿	明治11年6月26日(1878)	24.0×16.0cm	縦帳	仮綴24丁	地券證書換願	○「地所賣買二付地券證書換願」親族譲渡二付地券證書換願(楮紙)合綴 ○青色半葉十行罫紙を使用
飯田23	大津手永下中窪田村質地讓地御割印證文根帳	庄屋 芦川庄兵衛	なし	天保14年1月(1843)	23.8×17.0cm	縦帳	10丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○付箋二点
飯田24	大津手永下中窪田村當春質地讓地御割印證文根帳	なし	下田弥七郎殿	天保15年2月(1844)	24.6×17.2cm	縦帳	6丁	質地・讓地証文	○貼紙一点
飯田25	大津手永下中窪田村質地讓地御割印證文根帳	庄屋 喜兵衛	山隈権兵衛殿	弘化4年1月(1847)	24.0×17.0cm	縦帳	6丁	質地・讓地証文	○付箋一点
飯田26	大津手永下中窪田村質地讓地御割印證文根帳	なし	なし	弘化5年1月-2月(1848)	24.8×17.1cm	縦帳	13丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○付箋一点 ○挟込二点 ○裏表紙なし
飯田27	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	なし	なし	安政4年3月(1857)	24.6×18.8cm	縦帳	6丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○付箋一点 ○挟込一点 ○一丁から四丁まで印あり
飯田28	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 芦川庄兵衛	なし	天保9年3月-天保11年(1838-40)	24.2×16.2cm	縦帳	20丁	質地・讓地証文	○付箋四点 ○挟込一点(付箋の剥落) ○裏表紙(内側)に印あり

飯田 29	合志郡大津 手永下中窪 田村當春質 地讓地御割 印證文根帳	庄屋 芹川 庄兵衛	なし	天保11年 12月・天保 12年3月 (1840-41)	24.1× 17.2cm	縦帳	14丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○付箋三点
飯田 30	合志郡大津 手永下中窪 田村當春質 地讓地御割 印證文根帳	庄屋 芹川 庄兵衛	下田弥 七郎殿	天保13年3 月 (1842)	24.4× 18.2cm	縦帳	16丁	質地・讓地証文	○貼紙二点 ○付箋五点
飯田 31	大津手永下 中窪田村 【請寄 質 地 上ヶ 高】御割印 證文根帳	下中窪田村 庄屋 芹川 庄兵衛	山隈権 兵衛殿	弘化2年1 月 (1845)	24.2× 16.8cm	縦帳	14丁	質地・上ヶ高証 文	○貼紙四点 ○付箋四点
飯田 32	合志郡大津 手永下中窪 田村質地讓 地御割印證 文奉願候根 帳	下中窪田村 庄屋 喜兵 衛	山隈権 兵衛殿	弘化3年1 月 (1846)	24.6× 16.8cm	縦帳	10丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○挟込一点 ①表題無し (質地証文) 14.2×13.6cm
飯田 33	大津手永下 中窪田村質 地讓地御證 文根帳	庄屋 理喜 右衛門	山隈新 左衛門 殿	安政5年3 月 (1856)	24.6× 18.4cm	縦帳	10丁仮 綴	質地・讓地証文	○裏紙を使用
飯田 34	合志郡大津 手永下中窪 田村當春質 地讓地御割 印證文根帳	庄屋 理喜 右衛門	山隈新 左衛門 殿	安政6年1 月 (1857)	24.8× 17.6cm	縦帳	4丁	質地・讓地証文	○割印あり
飯田 35	大津手永下 中窪田村質 地讓地御割 印根帳	下中窪田村 庄屋 中津 半三	高木仁 十郎殿	文久2年3 月 (1862)	24.8× 17.4cm	縦帳	8丁	質地・讓地証文	
飯田 36	大津手永下 中窪田村 【質地 讓 地】證文御 割印奉願候 根帳	庄屋 中津 半蔵	高木仁 十郎殿	文久3年1 月 (1863)	24.8× 16.6cm	縦帳	7丁	質地・讓地証文	
飯田 37	大津手永下 中窪田村質 地讓地御割 印根帳	下中窪田村 庄屋 理喜 右衛門	高木仁 十郎殿	万延2年3 月 (1861)	26.2× 19.1cm	縦帳	7丁	質地・讓地証文	○貼紙四点
飯田 38	合志郡大津 手永下中窪 田村質地御 割印證文根 帳	庄屋 藤八	なし	嘉永元年8 月 (1848)	24.6× 17.4cm	縦帳	7丁	質地証文	○貼紙一点 ○挟込二点 ①表題なし (質地証文の補足) 23.8cm×12.6cm ②表題なし (付箋の切れ端)
飯田 39	合志郡大津 手永下中窪 田村當春質 地讓地證文 御割印根帳	なし	なし	嘉永2年2 月 (1849)	24.2× 16.8cm	縦帳	8丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○付箋一点

飯田40	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 藤八	山隈權兵衛殿	嘉永4年2月(1851)	24.7×18.6cm	豎帳	12丁	質地・讓地証文	○貼紙一点 ○十二丁表裏に印あり
飯田41	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 藤八	山隈權兵衛殿	嘉永5年2月(1852)	24.6×16.6cm	豎帳	28丁	質地・讓地証文	○貼紙二点 ○付箋五点 ○一丁表・二丁表・二八丁裏に印あり
飯田42	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 藤八	山隈權兵衛殿	嘉永6年1月(1853)	24.7×17.8cm	豎帳	14丁	質地・讓地証文	○貼紙三点 ○付箋一点 ○挟込一点(付箋の剥落)
飯田43	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 藤八	山隈新左衛門殿	嘉永7年2月-安政2年(1854-55)	24.8×19.0cm	豎帳	5丁	質地・讓地証文	○付箋二点 ○表紙、裏表紙、四丁表、五丁裏に印あり
飯田44	合志郡大津手永下中窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 藤八	山隈新左衛門殿	安政2年3月(1855)	24.5×19.0cm	豎帳	7丁	質地・讓地証文	○挟込一点(付箋の剥落)
飯田45	合志郡大津手永下田窪田村當春質地讓地證文御割印根帳	庄屋 藤八	山隈新左衛門殿	安政3年(1856)	24.4×16.8cm	豎帳	6丁	質地・讓地証文	○裏表紙なし
飯田46	なし	熊本毎日新聞社	飯田剛様	なし	14.2×9.0cm	葉書		熊本毎日新聞購読の勧誘	○消印二点
飯田47	市町村雑誌 第百壹號	(出版社) 市町村雑誌社	なし	明治35年2月15日(1902)	21.6×14.4cm	冊子(活字)	26頁	月刊雑誌	○表紙に黒ペンで「塩」および「鹽」の書きかけあり
飯田48	大津手永下中窪田村田畑【見圖帳名寄帳】名寄札帳	なし	高木仁十郎殿	文久3年9月(1863)	12.4×34.0cm	横長帳	14丁	土地台帳と名簿	○挟込一点
飯田49	大津郷中窪田組拾人組小前帳	里正 武藤三七	なし	明治3年3月(1870)	12.2×33.4cm	横長帳	7丁	諸組の構成員等	○付箋一点
飯田50	大津手永尾足村悪地御足米徳揃帳	尾足村庄屋 祐三郎	高木 二十郎	明治元年11月(1868)	12.6×34.2cm	横長帳	8丁	徳米等の明細	○貼紙多数
飯田51	父飯田小七郎葬式二付佛米香典控	飯田尚	なし	明治43年4月23日(1910)	12.2×32.8cm	横長帳	20丁	佛米・香典に関する名簿	○裏表紙破損
飯田52	實父不辛二付香料扣	飯田鏡	なし	明治7年1月27日(1874)	11.6×33.2cm	横長帳	1丁	香典に関する名簿	○破損あり
飯田53	西幕諸出銭稜寄取立帳	下中窪田村	なし	文久元年11月-12月26日(1861)	12.4×34.6cm	横長帳	47丁	貸付・取立に関する明細	○貼紙三点 ○付箋六点 ○挟込六点(貼紙剥落二点、付箋剥落四点)

飯田 54	亥夏諸出銭 稜寄取立帳	下中窪田村 庄屋 中津 半三	なし	文久3年6 月 (1863)	12.5× 34.0cm	横長帳	39丁	貸付・取立に関 する明細	○割印あり
飯田 55	子夏諸出銭 稜寄取立帳	下中窪田村 庄屋 中津 半三	なし	元治元年7 月 (1864)	12.5× 35.0cm	横長帳	35丁	貸付・取立に関 する明細	○付箋一点
飯田 56	延米代歩質 夏出銀御取 立帳	なし	なし	文久元年7 月 (1861)	12.4× 36.2cm	横長帳	21丁	延米代等の取立 に関する明細	○割印あり ○貼紙二点 ○挟込二点 (付箋剥落二点) ○裏表紙なし
飯田 57	諸出銀稜寄 取立帳	下中窪田村 庄屋 理喜 右衛門	なし	万延元 年11月 (1860)	12.4× 35.0cm	横長帳	仮綴37 丁	諸経費の取立等	○割印あり ○貼紙二点 ○付箋二点 ○裏表紙なし
飯田 58	諸開名寄帳 下中窪田□	なし	佐藤勝 之助殿	宝暦11年 5月-明治 4年 (1761- 1871)	15.6× 44.0cm	横長帳	丁数不 明	畑の等級と名寄	○破損大 ○貼紙、付箋、挟込の剥落多 数 ○明治四年までの記述あり ○内扉に「合志郡大津手永下 中窪田□ 寶暦十一年 五 月」との墨書あり
飯田 59	諸開名寄御 帳中窪田村	なし	佐藤勝 之助殿	宝暦13年 9月-明治 2年 (1763- 1869)	15.6× 180.0cm	横長帳	丁数不 明	畑の等級と名寄	○貼紙、付箋、挟込、の剥落 多数 ○明治二年までの記述あり ○内扉に「合志郡大津中窪田 村田畑名寄御帳 寶暦十三年 未九月」との墨書あり
飯田 60	なし (剥落 等)	なし	なし	なし		一紙 (断簡)	34点一 紙断簡	59の綴じ外れ、 剥落	○58から60は、破損甚大につ き閲覧禁止

## 注

(1) 『菊池郡誌』(熊本県教育会菊池郡支会編・発行、一九一九年)、  
一一九頁。

(2) 大島明秀、園田悠「矢護川小学校文書」について(『國文研究』  
第五六号、二〇一一年所収)参照。

(3) 各人の所屬は調査当時のものである。

(4) 以下、「歴世輯誌」(飯田12)からの引用。

(5) 飯田半次郎は、文化一三年(一八一六)十一月十五日出生。家  
督を相続した際に名を小兵衛と改め、さらに維新に際し名を定  
と改めた。「歴世輯誌」(飯田12)。

(6) 『明治七年 有禄士族基本帳』(熊本県立図書館蔵)。

(7) 表の作成にあたっては、できるだけ底本の表記を反映させ、また、  
割注とその改行は「      」と $\wedge$ で示した。